
祝日の居間

菱木散史

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

祝日の居間

【コード】

N9480Z

【作者名】

菱木散史

【あらすじ】

春ノ助と、彼の年の離れた従妹である奈津との会話

とある祝日、目を覚ましたら、階下に奈津の甲高い声が響いていた。外を見遣れば、空は既に日が高い。春ノ助はぐつと伸びをして、そのまま寢床を出た。寝間着を部屋の隅に打ち遣って、衣服棚に置んだあるもののうちから一つ選んで着けた。未だ寒さの抜けきらない時分だった。

奈津は、幼稚園に上がったばかりの、春ノ助の従妹である。従妹と云っても、春ノ助とは年が二十以上も離れているから、その関係は寧ろ親子に近い。同町に住むことから、叔父が何か用があった時に、しばしばこれを連れてくるのである。

洗面してさっぱりした春ノ助は、下へ降りて、賑やかな居間に入った。

「春さん、こんにちは」奈津は春ノ助の下に飛んできて、躡られた通りの、しかし未だきこえない挨拶をした。

「はい、こんにちは」春ノ助は腰を下ろして、あまり人に見せないはにかんだ笑顔で応えた。すると奈津は何か思い出したかのよう
に、バツとその場を離れ、卓上に置いてある、紙を丸めたものを手に取って、またすぐ春ノ助の下に戻ってきた。

「春さん、これを書きました。これは、お星さま」夜空を描いた絵らしい。紙には色鉛筆で、青い背景に、空を埋め付くさんとはかりの小さな五芒星が無数に描かれていた。

「お上手だね、こんなにたくさん星が見えましたか？」春ノ助は何気ない疑問を發した。

「これぐらいありました」奈津は自信に満ちた顔で肯定した。

「奈つちゃん、眼が良いんだね」

「わたし、眼が良いの、みんなが見えないって云うお星さままで見えるの。尖った形まではつきりと見えるのよ」春ノ助と、二人の会話に耳を傾けていた彼の家族たちは皆、待ち構えていた時がきたと

ばかりにどつと笑った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9480z/>

祝日の居間

2011年12月29日17時48分発行